
ナナちゃん

高槻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ナナちゃん

【Nコード】

N2852H

【作者名】

高槻

【あらすじ】

娘がいつも抱いている人形が、如何しても気味が悪い。

三歳になったばかりの娘、奈々は、今日も一人遊びに興じている。

「ナナちゃん、きょうのごはんははんばーぐでしゅよ」

洗濯物を畳みながら眺めると、どうやらお気に入りの人形相手におままごとをしているようだ。

今日の晩御飯は、ハンバーグにしようかしら。

畳み終えた洗濯物を箆笥に仕舞い、押し入れから奈々の布団を出して、風通しの良い場所に敷いた。

「奈々ちゃん、お昼寝の時間よ。おいで」

「あーい」

奈々は人形を抱いたまま、布団に寝転ぶ。その上からタオルケットを掛けると、直ぐにトロン、としたおねむの顔になった。

いつもなら、子守唄を歌わないと暫く寝ないのに、今日は直ぐに寝入ってしまった。

暑いからかしら。縁側の外を見やると、軒先にぶら下げた風鈴が、ちりん、と風に揺れた。

お風呂掃除をして買い物のメモを書けば、丁度奈々も目を覚ますくらいの時間になるだろう。そう思い、その場を離れようとした。

その時。

ふと、違和感を感じたのだ。

何だろう、この違和感は……。

視線を奈々に戻すと、ソレと目が合った。

「！！」

奈々が抱いている人形だ。

その人形はダークグリーンのフェルト地のエプロンドレスを着た、栗毛の女の子で、奈々の祖母が買い与えた物だった。

おかしいわね、この人形、寝かせると瞼を閉じる筈なのに……。

今は長い睫毛の付いた瞼は開き、ブルーグリーンの瞳が覗いている。

結局は人形なのだから、こういう事もあるだろうと思ったが、気味が悪かったので顔が下になる様に少し人形をずらした。

昔から、人形という物が怖かった。今にも動き出しそうで、気味が悪かったのだ。それに、あの無機質な肌も気持ちが悪い。

ぬいぐるみも、目が気持ち悪くて、キャラクターものしか買う事は無かった。

だからか、祖母が買い与えた人形を、自分と同じ名前で呼ぶ程に奈々は大変気に入っていたのだ。でも・・・

気持ち悪い。

その時はそれだけ思っで、風呂掃除に取り掛かった。

■ ■ ■

「奈々ちゃん、お昼御飯食べよう。・・・あら」

さつきまで遊んでいたと思っでいた奈々は、お気に入りの人形を抱きながら、座ったまま眠っでいた。

最近よく寝るわね……。どこか悪いのかしら。

少し不安になっで、肩を揺すっで起こしていると、人形が此方を見たような気がした。

「ひっ」

吃驚して腰を抜かしかけたが、その声で奈々の目が覚めたようだ。人形が此方を見るわけじゃない。奈々を揺すった時に動いたのよ。

そっ自分に言い聞かせる。

「奈々ちゃん、眠いの？気持ち悪く無い？」

「・・・ねむいの」

目をこしこし擦る手を握って、止めさせる。

「そっか。じゃあ、お昼御飯食べたら、お昼寝しようね」

「・・・ん」

結局、お昼御飯を食べながらコクリコクリと船を漕ぎだしたので、布団を敷いて寝かせた。

熱は無いようだし、お腹の調子が悪いという事も無い。暫く様子を見ようと思い、奈々の頭を撫でながらぼんやりとしていた。

ふと、目が覚めた。

やだ、眠っちゃってたんだわ。

時計を見ると、十五分位しか経っていない。ホッとして視線を落として、

ぞっとした。

あの人形が、

いつの間にか、奈々の隣で眠っている。

人形は、食事の時は汚すといけないので、いつも部屋に置いたままにしている。今日は食事が終わる前に寝かせたから、人形を抱いてはいなかったのに・・・。

怖い、怖い、怖い、怖い

恐怖に身が竦んで、その場から動けない。目も離すことが出来ない。

ぱち

「ッ！！！！！」

人形の目が、

目が開いて、

ブルーグリーンの瞳が、

天井を映して、

顔が、ギギギ、と

ギギギ、と此方を向いて、

ニコリ、と嗤って、

「マ、マ

「ひひひひひいッッ!!」

人形は、布団を抜け出して、

一歩、

また一歩、

此方へ、

此方へと、歩いて来る。

「あ、ああ、こ、来ないで、来ないでええッッ!!」

じりじりと、後ろへ後ずさる。

しかし人形は嗤ったまま、

段々、

段々と、近づいて

「きゃあああああっつ!!」

私は、

そこにあつた座布団を手にとって、

人形に叩きつけた。

「ただいま。・・・あれ、居るじゃないか。どうしたんだ、明かりもつけないで」

部屋の明かりを付けて、家の主人が入ってくる。

「ああ、奈々が寝てたのか。しかし、昼寝には遅いんじゃないか？
奈々ーお父さんだよー、ただいまー」

けれども、愛する娘の返事はない。

「・・・奈々？奈々？奈々!？奈々!・・・佳奈!救急車!!早

く!!・・・佳奈?おい佳奈しつかりしろ!!」

気付いた妻は、はっと目を見開いて、

「いやあああああああああああああああ」

「佳奈!?佳奈!?」

迸る絶叫、パニックに陥った室内。

折れて転がった人形の首が、それを眺めていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2852h/>

ナナちゃん

2010年10月11日18時53分発行